# 平成30年度　第２回難波宮跡整備計画検討委員会議　要旨

１　日　　時　平成31年３月20日（水）　午前10時から正午

２　場　　所　大阪市役所地下１階第３会議室

３　出 席 者

難波宮跡整備計画検討委員会議委員　中尾委員、増渕委員、國下委員、前川委員（４名）
（欠席：八木委員、弘本委員、加我委員、足立委員）
大阪市教育委員会事務局総務部　多田部長、植木文化財保護課長、佐藤主任学芸員、河嶋係員（４名）
大阪市建設局公園緑化部　合田部長、黒瀬調整課長代理、安藤係長、玉作係員（４名）
大阪市経済戦略局文化部文化課／博物館運営企画室　萩原担当課長、岩槻担当課長代理（２名）
大阪府都市整備部事業管理室　金澤事業企画課主査（１名）
大阪府都市整備部都市計画室　池田室長、加藤課長補佐（２名）
大阪府教育庁文化財保護課　中西総括主査（１名）

４　内　　容

［議題］
「史跡難波宮跡保存活用計画」（案）について

［議事要旨］

多田部長の開会挨拶ののち、座長に中尾委員を選出して議事に入った。

事務局から議題を説明。

昨年６月に開催した前回の委員会議の内容をふまえて修正し、事前に委員へ送付した資料、およびその後の検討により、第３章・第４章・第11章について内容を加えた追加資料をもとに説明した。

各委員からは、事務局が説明した保存活用計画の案について基本的に了承を得られた。そのうえで、今後の留意事項としての意見が出された。主要なものは以下のとおり。

・難波宮は大阪という都市のルーツになる重要な遺跡であるということをもっと強調し、保存や整備について理想を謳い上げること。
・今後の保存・整備の方向性について、平成24年度の整備構想案などを使ってもっと広い範囲を対象とすること。
・本質的価値にかかわる表現について、歴史上価値があるという表現を、難波宮がもつ史跡としての価値をもう少し特価させて具体的なキーワードを入れること。
・現状把握が重要なので、「史跡等の概要」のところで「整備の経緯」についてもしっかりまとめること。
・実際の地下遺構を展示（整備）する努力はしてきたが、必ずしも充分でないのでそれを改善するという課題があるという内容を盛り込むこと。
・大阪歴史博物館の活動と連携しながら進めるというところを強調すること。
・活用の現状についてサイトミュージアムの活動などがよりわかりやすくするために写真を入れること。
・史跡指定地周辺の要素の記述では良い要素だけでなく景観を阻害している要素の把握も重要であること。
・難波宮を広く保存・整備するということが防災上も大きな価値があることを強調すること。
・巻末に可能なら用語集を付けること。

事務局からは、こうした意見をうけて保存活用計画（案）を修正し、再度委員へ送付して意見を伺うとともに、文化庁とも協議して完成を目指す、という今後の予定が示された。